

輝いている人を紹介します

まちのキラリ

伊達ソフトボールスポーツ少年団

監督

鈴木 貴博 たかひろ さん (伊達地域)

伊達ソフトボールスポーツ少年団で監督を務める鈴木貴博さん。ソフトボールを通して、子どもたちの育成や保護者同士をつないでいる鈴木さんに、これまでの活動とこれからの目標を伺った。



監督就任のきっかけ

私がソフトボールの指導に携わるようになったのは、ある日突然、同級生から声をかけられたことがきっかけでした。子どもの送迎だけで、そもそもこういう活動が嫌いでした(笑)。でも同級生の頼みなので、断ることができず渋々コーチを引き受け、5年ほどコーチを務めたあと、監督となりました。

指導者として分岐点

監督就任した当時は、勝たせたい、勝ちたい一心で、子どもたちに厳しく接し、いつも怒っていました。就任して2年間は全然勝てなくて、どうしたらいいのかと悩んでいた時期に、相手チームの監督から「怒っていないか」と聞いてきました。その時、私は「怒らないでください」と返したそうです。その時から監督としての考え方が変わりました。



Profile ●すずき たかひろ

1970年生まれ。中学校と社会人で野球に打ち込み、子どもが伊達スポ少に入部し、同級生の誘いから携わるようになる。5年ほどコーチを務めて監督に就任。監督として12年間、子どもたちを指導し、全国大会と東北大会にそれぞれ1度導いている。県北ソフトボールスポーツ少年団連絡協議会副会長・伊達支部長、伊達選抜チームの代表を務めている。

「たら強くならないよ」と助言され、その一言が私に響きました。それを機に、監督とコーチで3人だったものを、お父さん全員にコーチとして参加してもらい、みんなで育てる体制に変更しました。それから徐々に勝てるようになっていきました。

ご縁作りが役目

私の役目は、お父さんたちのコミュニケーションの場を作り、人と人をつなぐことだと思っています。私がそうであったように、お父さんたちは仕事以外の場に参加することは好きではないと思います。コーチになってもらうことで参加しやすくなり、仲間意識が芽生えます。そのつながりが子どもたちを育てていくことにつながっていくと

思います。

「努力は才能を凌駕する」をスローガンに、全体練習のできる時間は限られているので、毎日、家でバットを振るとか、昨日より今日、今日より明日の自分が成長できるように話をしています。そこでも、コーチとつながっているお父さんたちが子どもの練習を見られることにつながっていると思います。

立場が人を育てるというように、私自身が成長させてもらっていると思います。これからは人と人をつなぐご縁作りしていきたい。それがチーム強化につながると思います。その活動の先に、またいつか全国大会出場の切符をつかみたい。



ランナーをつけた試合形式のノックを行う鈴木さん